

光学医療診療部



診療部動画



1. スタッフ

部長（教授） 田中 靖人 たなか やすと
副部長（講師） 具嶋 亮介

2. 診療部の特徴、診療内容

光学医療診療部（内視鏡室）は、消化器内科、消化器外科、画像診断科、呼吸器内科、呼吸器外科の医師と看護師、内視鏡技師が業務を担当している。

1) 消化管疾患の内視鏡診断・治療、2) 胆道・膵臓疾患の内視鏡診断・治療、3) 呼吸器疾患の気管支鏡を用いた診断・治療を行っている。消化管疾患の内視鏡検査や内視鏡治療は、消化器内科と画像診断科スタッフが、気管支鏡による検査・診断は呼吸器内科と呼吸器外科が中心に行っている。

消化器内視鏡領域では特に、食道・胃・大腸の早期癌に対する内視鏡治療(ESD)に関する症例数が多い。近年は、咽喉頭領域の表在癌は耳鼻咽喉科と合同手術(ELPS)を、GISTや十二指腸腫瘍に対しては消化器外科と腹腔鏡・内視鏡合同手術(LECS)といった低侵襲治療を積極的に行い、症例数も増えている。さらに富士フイルム社のAI技術を用いた、大腸ポリープにおける内視鏡診断支援機能である「CAD EYE」を導入した。胆膵領域ではダブルバルーン内視鏡による胆道ステント留置・ドレナージ術や、超音波内視鏡を用いた胆道ドレナージ術(EUS-BD)といった高難度治療を積極的に行っている。気管支内視鏡領域では、超音波気管支鏡によりEBUS-TBNAやEBUS-GSが行われている。

3. 診療体制

○内視鏡スタッフ構成

中央診療棟2階に光学医療診療部（内視鏡室）は位置し、最新の装置や設備を完備すると共に、日本消化器内視鏡学会指導医9名、専門医27名、日本呼吸器内視鏡学会指導医2名、専門医6名を含む医師スタッフと、看護師、内視鏡技師とが業務を担当している。

4. 診療実績

○主要な疾患の治療実績（成績）

当院での内視鏡検査数は、2023年度の実績では、上部消化管内視鏡 5,355件、下部消化管内視鏡 2,326件、気管支鏡 332件となっている。特に内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)は食道101件、胃96件、大腸57件行っている。耳鼻咽喉科との合同治療であるELPSは48例、消化器外科との腹腔鏡内視鏡合

同手術(LECS)は23例行っている。またIBD患者が増加し、カプセル内視鏡が75件、ダブルバルーン内視鏡検査が46件行っている。胆膵内視鏡検査数は530件で、超音波内視鏡下針生検(EUS-FNA)も207件と多い。

	2021年	2022年	2023年
上部消化管内視鏡検査	5,074	5,152	5,355
下部消化管内視鏡検査	2,353	2,342	2,326
胆膵内視鏡検査	376	380	530
気管支鏡検査	313	305	332
総件数(件)	8,116	8,179	8,543

5. 安全な内視鏡検査・治療への取組み

内視鏡検査、治療には麻酔を使用するため数々のリスクがあるが、内視鏡検査前には全例にタイムアウトを導入し、患者氏名のみならず、アレルギー歴、併存疾患、抗血栓剤服用の確認まで行っている。術中はモニタ管理をし、検査後には、退室基準を満たした患者のみ帰宅を許可している。

6. 内視鏡の洗浄・消毒

内視鏡器具の洗浄や消毒は、日本消化器内視鏡学会のガイドラインに準拠して行っている。内視鏡洗浄・消毒は6台の機械洗浄機で行っている。使用したスコープは直ちに完全洗浄・消毒し、どのスコープをどの患者に使用し、誰が洗浄・消毒したか追跡できるように管理しており、感染防止対策は万全である。また、年に1回の内視鏡洗浄機器取り扱い講習会を開催している。

7. 地域医療への貢献

地域の医師会主催講演会等を通して、内視鏡診断・治療について最新の情報を提供している。

近年、地域の開業医、病院からの高度な内視鏡診断、治療の紹介患者が増加してきており、今後も積極的に地域医療の活動を行っていく。

8. 医療人教育の取組

熊本大学病院は日本消化器内視鏡学会指導施設・日本呼吸器内視鏡学会認定施設であり、専門医取得のための研修施設としての役割を果たしている。また、年に3回ハンズオンセミナー(大腸挿入・ESD・EUS/ERCP)を開催し、研修医・専攻医の内視鏡手技の習得のための教育と実技指導をおこなっている。